

◎九州総合通信局長表彰

電波の日表彰受賞者（1個人・3団体）

大橋 正良 様

（元福岡大学工学部 教授）

長年にわたり戦略的情報通信研究開発推進事業の地域ICT振興型評価委員を務めるとともに、地域課題解決のため産学官共同で研究開発を行うなど、九州地域における情報通信の発展に多大な貢献をされました。

株式会社宮崎放送 様

（代表：代表取締役社長 松方 健二）

長年にわたり宮崎県下のラジオ放送局が共同制作して放送する「防災ラジオ特別番組」を通じ、災害時などにおけるラジオ放送の有用性の理解促進に取り組み、地域住民の防災意識向上に多大な貢献をされました。

株式会社エフエム宮崎 様

（代表：代表取締役社長 黒木 俊郎）

長年にわたり宮崎県下のラジオ放送局が共同制作して放送する「防災ラジオ特別番組」を通じ、災害時などにおけるラジオ放送の有用性の理解促進に取り組み、地域住民の防災意識向上に多大な貢献をされました。

九州・沖縄「道の駅」連絡会駅長会 様

（代表：会長 下城 卓也）

電波利用環境保護の意義について深く理解し、九州地域全ての道の駅へポスター掲示をはじめ情報発信機能を活かしたさまざまな周知広報の支援に尽力するなど、良好な電波利用環境の維持に多大な貢献をされました。

情報通信月間表彰受賞者（1個人・3団体）

森戸 裕一 様

（一般社団法人日本デジタルトランスフォーメーション推進協会 代表理事）

地域情報化アドバイザーとして、自治体や地域におけるデジタルトランスフォーメーション推進に取り組み、自治体における情報化の推進と人材育成に多大な貢献をされました。

佐伯市 様

（代表：市長 田中 利明）

株式会社ケーブルテレビ佐伯と協定を締結して、大分県佐伯市内全域においてケーブルテレビネットワークの光化を行うことにより耐災害性の強化を図り、災害時における安定的な情報伝達の確保に多大な貢献をされました。

株式会社ケーブルテレビ佐伯 様

(代表：代表取締役社長 五十川 知典)

佐伯市と協定を締結して、大分県佐伯市内全域においてケーブルテレビネットワークの光化を行うことにより耐災害性の強化を図り、災害時における安定的な情報伝達の確保に多大な貢献をされました。

公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 様

(代表：理事長 村上 憲郎)

情報社会のあり方や社会的課題を問う国際会議であるハイパーネットワーク別府湾会議や、ICTの最新動向などをテーマとしたハイパーフォーラムを長年にわたり開催するなど、地域の情報化に多大な貢献をされました。

「情報通信の安心安全な利用のための標語」(学校部門)九州総合通信局長賞

鹿児島県立鹿児島中央高等学校 様

(代表：校長 野村 義文)

標語『その投稿 生涯消えない 「ストーリー」』

「情報通信の安心安全な利用のための標語」の公募において、熱心に取り組み優秀な作品を創作されました。これは児童生徒における情報通信の適正な利用及びデジタル社会の発展に大きく貢献をされました。

◎九州電波協力会長表彰

表彰受賞者 (7 団体)

長崎市 様

(代表：市長 鈴木 史朗)

東京テレメッセージ株式会社 様

(代表：代表取締役 清野 英俊)

長崎駅周辺まちづくり推進協議会 様

(代表：会長 岸本 悟)

全国初の取り組みとして防災行政無線を活用した防災情報配信システムを共同開発し、屋外ビジョンやサイネージで発信することで、長崎駅周辺の利便性を向上させるとともに災害時における地域住民や観光客の安心・安全の確保に多大な貢献をされました。

長崎県 様

(代表：知事 大石 賢吾)

長崎県病院企業団 様

(代表：企業長 八橋 弘)

国立大学法人長崎大学 様

(代表：学長 永安 武)

西日本電信電話株式会社長崎支店 様

(代表：支店長 瀬戸口 浩)

長崎県の離島の病院においてローカル 5G を活用した高速かつ安定的な遠隔診療の環境を整備し、離島居住者の負担解消や医療格差の縮小を図るなど、医療分野の高度化に多大な貢献をされました。

《参考》

東京都で開催される令和6年度「電波の日・情報通信月間」記念中央式典において、以下の管内関係者が表彰される予定です。

◎「電波の日」総務大臣表彰

牛島 和夫 様

(国立大学法人九州大学 名誉教授)

長年にわたり九州受信環境クリーン協議会会長として地理的に対策が困難な九州の放送受信障害に対する発生原因の調査と防止の研究に取り組むとともに同協議会の円滑な運営に尽力するなど良好な受信環境の確保に多大な貢献をされました。